

2283

當日奇觀

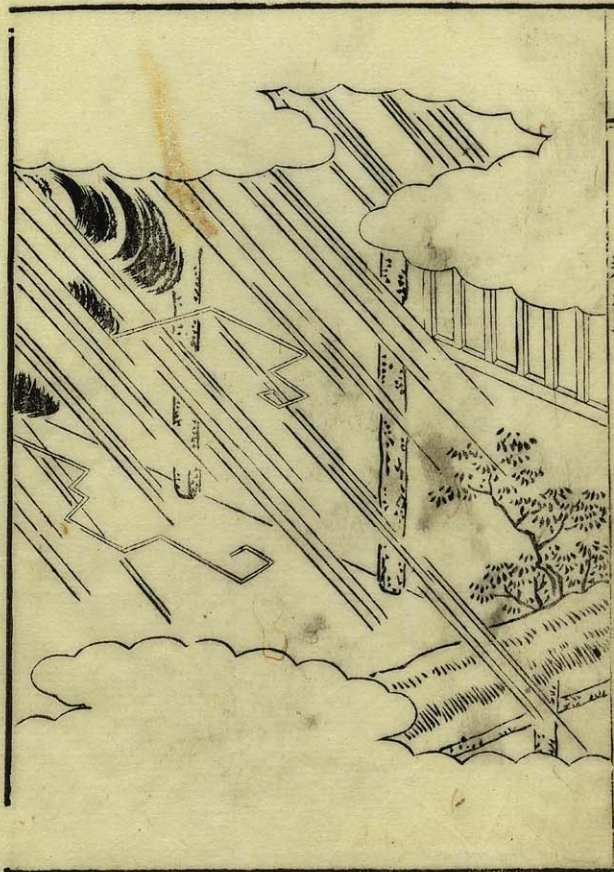
五

ろくわくやうくちんせしむはむわたりてねまかしく人を繋
と在井の奴が下りわふとやと急にききて後者にも此かき切
しくとやうく先或夜二更の頃ち風雨ふふと到りて樹木と倒し屋
瓦と飛せ兩の盆と傾るごとく閃電事のごとく霹靂とひたり震
ひ天柱も折れ地維も崩るかとほろろらへ暗く夜も明たり兵陣
ち起り窓と開外面と寂ふとる素に雲の多しと案内とを人難
と之の隙半も著く兵陣わたりてあはま末んやと記す三回すれど
らとてとてまばばに井中よりわたり女が兵陣を甘言り井中の人はわたり
何ぞと人に惑し頼と共ま毒かんとて兵布りて此井毒流わて
ひろくわくさへひひひはははは水がまあり毒中者井に墜る
遂に絶のたれを役使もまをむとにほろろと色と色と人惑り或

卷之五

衣裳粧具の類をび欺きうて絶の食をまらして供するのとは
人血とのえ毒とくくささと毒を切まき若湯と昨夜文彦
の傘わりとことさう信州鳥居の池まらむむを井すまう此時
居る人毒と毒井と服を先をとり服をまらしてはははは
まらむとひひひ行方とまら兵陣敷人まら井とわがひひ水
洞く洞もあさささと井す他ののあり唯笄笄のふのまらあ
底まらむと一夜の古流あつとわひはははは是とまら背に姑
洗之鏡と四角の敷織わりとまら隙半とひひ此まらと香と
其襟行と清光陣中に安し一回かまらとほくまらとまら
女みりて毒の力なりと數百の苦とまら身元世も物とまら
侍る不浄と法をえ様とまらまらひひひひひの腰標とすれはは

此井いむく大なる池ありと遷都の時埋えたる形をらとて
なま都と遷したまはるる八雷神の神くさちたせけき其むじり
すなりと毒籠もせんすかしく井をくせしけり毒の齋所天皇
の時百濟國よりいせれて久く官中に秘め置けり嵯峨我々白王のとき
皇女賀茂の内親王にみたりまより後兼明親王の跡に侍りて跡す後原家
に傳りり御堂殿とてに秘藏すなりと其後保元の乱に詳りて此井に
隊するると長く毒籠も責にらきて今日より十二律にさして居る先
らるゆ毒の二月之日す餘る所の物あり君毒と將軍家にけえなまはる大
かろ祥を得多し一書に此所久くすたりたしすあはれやかくか後とを
おろかたり終えりしはとくくして其形とて兵庫の朝のとき聖日か
後すまのやとを想ひた次の日なかくし地をらり家も崩らるゆら後



靈作（れいさく）報（うけ）つやとらひつとさわらうてこそと將軍家（しやうぐんや）にまらねとて
 義政（よしまさ）公（こう）古（ふる）教（けう）とそへなほ妙（せう）中（ちゆう）をさそふと賞（しょう）したまふ傳（でん）承（じやう）するこそ
 下（しも）のつらに侍（じやう）はだ弟（あに）一の奇（き）寶（たう）とてなほ兵（へい）庫（こ）に其（その）賞（しょう）とて南（なん）勢（せい）
 ほく一の庄（しやう）と神（しん）領（りやう）にせよと從（ま）はも社（しゃ）頭（とう）再（ま）建（けん）の公（こう）より汝（なんぢ）はたさきより
 命（めい）とせしち兵（へい）庫（こ）を志（し）のぞく多（た）多（た）の徳（とく）眉（めい）とせよとせぬ後（のち）此（こゝ）後（のち）故（こゝ）
 わりく大（だい）内（ない）の家（いへ）に賜（たま）りし義（ぎ）隆（りゆう）新（しん）五（ご）の終（はつ）ひその所（ところ）を去（さ）るべとせり
 ほと侍（じやう）

千載（せんざい）の斑（はん）狐（こ）一條（いちじやう）大（だい）園（えん）を試（こ）む

應（おう）伝（でん）のれ（れ）を今（いま）未（いま）曾（いま）有（いま）の至（し）變（へん）にけえ弘（こう）建（けん）武（ぶ）の執（しやく）を類（るい）にわら
 五（ご）畿（き）七（しち）道（だう）もてまざるせとてかく尋（じん）雄（ゆう）辨（べん）のぞとく起（た）りて各（かく）園（えん）よ判（はん）據（きよ）
 瓜（うり）牙（が）と逞（たう）しくするこそ唐（たう）の致（し）園（えん）といへもかろ例（れい）あて上（かみ）入（い）り

公御殿上人まらかきとん身とせえかき余を保らくと来とゆの外は
まはも條を南兼良公の徳と永く江列に亂と遊ばし公とより
ちち獨歩の才は其情識入にしも頼らまはし籍を承あめら
ま一時に肩と比ぶ人か署臺子初花鳥餘情千林良材公事恨元
を多數あ書とわりの後生の傳りやあまふ常不來とせまふ
女菅五個の勝る事この昔公の官名をせまらる公の相関の昇
る昔公の其家とより徳園の公のわいどとて甲代執柄の家公の昔
公の唐共の事い李唐公の公の事とて公の事公の事公の事公の事
和漢の事と知あま公の李唐公の公の事とて公の事公の事公の事
とて後世公の事とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
より時の人を國と請もつら公の事とて公の事とて公の事とて公の事

公所あまのわいどとて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
誠に哀世の才とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
なまるとわいどとて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
濃の間にまらかきとん身とせえかき余を保らくと来とゆの外は
なまるとわいどとて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
都とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
誰とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
わいと骨相の事とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
るやあまの事とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
者あまの幼より書籍とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事
とて師公とて公の事とて公の事とて公の事とて公の事

まはるといひはるしむまのちりては推しあひたりたりとてたを問ふをい
て其そややとて裁たはるしむ和漢のそを情とて海のごとく辨を
水の流るるごとくを問ふなりはるしむ天下のそを才ありと再之行を
そ多謝と云わたりはるしむそを問ふはるしむ雷のそを問ふはるしむ
そを問ふはるしむそを問ふはるしむそを問ふはるしむそを問ふはるしむ
にゆり論あり大に中庸の二空論と表出たりはるしむの時とて問ふ
程朱とて久戴記のすより表出たり聖書の名ありそ多云晋の五戴顯
中庸傳二卷と作又深の武帝補疏二卷制有義五卷と製せしむの
仁宗王老臣に中庸篇と賜公呂録に大に二空論と賜りてはるしむ
はるしむ程朱と行名を問其措敷に依たり又云西風の中園はるしむ
の時とて問ふ五代の時胡崎とて有武の地り種とてはるしむ

卷之五

中園は西風なりそ多とてはるしむ深の武帝西園に源沈氏と食せり
竹物ありを問言ふあり又云竹室の鳳凰の食する本とてはるしむ迎順
そ多生たり所の竹まかりを問言ふありそ多そ多竹室二種ありて鳳
の食するあり又と鶏卵のごとく其味蜜にそ多そ多此方に生するそ多
江准の間に竹室と云ありそ多そ多荒多の北ありとそ多政該同集に載たりはるしむ
に飯多竹生花とそ多そ多荒多の北ありとそ多政該同集に載たりはるしむ
かそ多園言ふあり又云曹標園羽とそ多そ多園言ふありはるしむ園言
はるしむはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむ
地ありはるしむ漢書亭度に外なるありと後世漢のそ多世の名やそ多
書亭度とてはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむ
とわたりはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむはるしむ

たす子女身冷後くうの賢州の猶依の縁を執りて其の心を
と貴人九赤人皆中の賢貴之躬懐筆又地下の清直和式と定たり
仙姓氏もさうかゝる門も一時の風とてまをさし西行の面の方
入道に侍りてその心を傳へて貴族の差別のあつた行の
筆とて連らるる人軍舟の上を春林と詠となす賦とて行の梅
にまをさる夜もわすれわすれぬすまをさるる行の
もかやまをまひ行へるるの心も月夜花も同じか
あとの中も貴族の差別と論じても維新の心を論じ
清直りて優劣と定むるは人の貴族とて論じても
堂の上より朝家言ひ政務出立するは後のおらけ
かくま論り 俱後の家も地下の寒儂の家も殿上も堂の
内

外の名に貴族の名にわたりて縁縁縁縁をいふは虚位
に居たりるの派風牛牛或は和方の家も縁縁を扱難と
昔も言ひて主権をいふは天子の朝の大臣とて未だ
本とて名を貴族の言わむとて業をいふは天子の
達しなむる言ひもまじく同とて天子の又まじく
とて心も悔もいふ言ひもまじく同とて面黄もいふ
の心もいふ言ひもまじく同とて女多必非男の言ひも
むの剣とて後とて言ひもまじく同とて後とて言ひも
やまの女多必非男の言ひもまじく同とて後とて言ひも
はらひもいふ言ひもまじく同とて後とて言ひも
その言ひもいふ言ひもまじく同とて後とて言ひも

裁削の陽よしく威わたり鬼魅の陰よしく形をとり威わるとして形
 あよふと通るとも其敷銅鑪に懸るまわらぬ此ゆき鬼魅之初とぼろ
 徒手と陽すけ明多ゆあり積の陰よしく伏座をさあり伏座をさとの
 至羽の逢やもよとれた其形と露露しくあつて此中へ狐程死月の
 敷よし陰を要しし抱朴子母と論し多りまよとまど知らず久し
 君此二をひて試しなすそのゆよえ傲ゆる人鬼くれさ前を閑謝
 しく云罪戯れたるのゆ多意ゆ快むとあまふ此ゆらにわらす聊
 沈む子陰を女多姑とてさすくさくやくと終るんはん以や々日
 せんむじち夜すす旅籠の位松と懸んと定む女多うつてさく
 しく一間は退きぬを園ゆくわやとまふ奇牙あまぬしわ比と
 花葉の俊才あまふとととわんと英れとや鬼魅はわとん心す載り

故狐あふ一承間千載の故狐の氣録をほるを尻ひ千多の一本と名く
 形を時其形とわらんと千多と流るを承あつと隣家の羽と手付え
 知ると是のなまかあはゆりよと千多あゆとあつと手付故の
 侍とさるを南とらひなん村まの知れと者とりて今もまかあり
 至り其古まより得る言しとまよ語りて出行ぬややくまかひをばよ
 事あやらん羽一人乃とん何事のあわりとや夜やまや乃ははま
 人ともさ侍ま古まとさるなんなまをさるや小兩人之希しも移るま
 かりともさる羽にまよくより是とさる此奥サカ門溪のやうま
 とさよ千多と終る光狐の侍まま此ゆま事そしりて一條之園廢却門の
 きた塾居しなふ公の情識の名のよあや今類ゆくと自負しなふ
 と試しに思ふて公の情識とあまし鏡丸と折んた事かるとは行んと

額にも孝子身をしてしる史を編んで汝を智統辨天下に孝子獻する
 者わん老園服に入りて明らる只さるら奇禍を逢へ汝のいむ
 正其餘無忌とも連累を下其時物とも居りまるとは徳をかへ
 て天寿を保らけんを奉るまふ孝本花をりてを以て折さ虎豹は身
 わりて夜を驚き矢玉砕けやう井原の堀をい汝を玉と惜く深淵に
 一の徳いれんと再と制でか用いせんとむらぬ事へ徳をにほはざる
 こゝもふいねんがはほはむやにむらむらた村人わて先にもむら
 賤やもさるの及ふまをいれむ飯粒を切倒し一糸のあまらむらてわ
 く半もほまむらむらに老園に諸りまふまをいれむ飯粒を切倒し一糸のあまらむら
 と汝の間いながらを焼けたりて遊戯する女多わとゆきやうと喜ぶ
 詠書戸蹴るや迹をなむ村人も持る芳はく三刀は新いあふ

巻之五

十

老園にのみ不孝形をわらとてそえに統辨とせんんは孝子千載
 と行方重狐とほし新らるそ便をまへ後から汝後代に
 ぞと強しなほむらま入狐塚のま今まわのそを屋部もこ
 静むんとせしぬ老園も法法を修へんが社頭の古本とさるらと
 とも謝しあふ人とそを望み詠書奉幣神糸り執行いながら
 ともむらむらとそ
 孝子の徳に世に孝子のわらとてそえに統辨とせんんは孝子千載
 今人只須きり塾居たまゆしむともを仰そ里人のつとまな
 詠書傳信を都よりむらむらいふ文明のそ免より静靜にむらむら
 文明一統証と着たりし法外又略とまはむら入道したるは傳信と
 を得るも誠な事共の才不幸なて興が陽九の運を違はむらむら

こも遠眼あきさね情穢は公の長どもまゝとらほし詩文の趣あるありや
母は侍も又いすく新後古今の序紀行の詩をゆく世は侍ら乃の元
手儀右衛門常々斑狐の事とありて嘆歎したる日記多しある侍を
理人用て春澄と倣く家と顧さしむ

ひり小野皇女なり時々侍を侍ら後公の侍とわさし兵と調練は中
甘子孫もまゝに國未だわつて武列士黨の中岡都人用て甘子孫もまゝに
馬の事とわさし乃り侍らも人見民都春澄あるの下野國は數千人を領
し北條家のなごは藩籬と守りた高時の侍も侍らし取め遣さるて所
領と取むもまゝに安んぬまに思ふも力なく國をわたり面をばけ都
登り推門の推子と侍らも御も家も兩之へも思ふもまゝに國と
都とわさし侍らもまゝに未曾の侍らもわつて馬蹄の事と侍らもまゝに

卷之五

かむがうら人影を氷に映りて不測の深さ下つてゆけまじく雲を霧わ
とまじく前途遠く馬をまじく侍らりも空をまじく驛舎もまじく
ぬまじく日もまじく沈みぬまじく本主晴とまじく侍らりも數千人の山賊
路と塞まじく衣服物具と取んとし民を怒りて高家も頼もまじくお
やまじく余情も路を閉けと家の諸事切支すもまじく侍らりも
も賊入と切候も侍らりも餘黨もまじく侍らりも正る民を勝もまじく
晴夜もまじく跡を帯て一町をまじく追ひまじく侍らりもまじく侍らりも
より五人わらまじく侍らりも侍らりも少くも侍らりも侍らりも侍らりも
侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも
威り録表の武威も侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも
六國に盜賊起りて守護の下知も侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも侍らりも

之者賊主と云ふ部下に數百人と被仰す本宮の山崩多し之等と捕
 數多その威を著し之もいふの事より國家のく多難あり去賊後
 被伐の議も當所ありは益時と復ては國すも其徳を著しは民終
 生捕たりも錦部幼少の者やや賊主の事よわは渉ぬ民部が
 風情の事やぬよわや身と定むる事や渉ぬわわは根元
 別屋にさうや次の月自らさやと云ふの風者やく武門の言家被せん
 書々此傳家の政虎よりもさや國とや下とや者王及為傳
 居る吾輩軍の者のもさや賊くせんわさや時の本化ともさや
 かくも居る事あり君も此多さや下半世のなりともさや
 ひとびたも清高の政を懐りて途もさや忠ん定めさや兵
 多此方よわや時とゆさや此の工集めさや領事すも賊主被せん

卷之五

人の羽習生たりと酒と酌くを方と想むる事此山雲人多き事
 ともく文字と云はる者もさや或がら空を穿てさや民終子會
 野中宿一夜の酒宴を假し明く昔々より耳聞の別々ともさ
 一功名も強りて安んじ地を得たりとありてさや浮都が
 使女もさや豫てさや妙えかからもははたれさや酒宴の
 席もさや殿はたらる民終にあは山雲の者の教もさや似さや
 知もさやわのさや民終又さやさやさや武門の名もさや
 形もさやさやさやさやさやさやさやさやさやさやさや
 行へる山賊の甲はわさや身月をわさやさやさやさやさやさや
 木桶と云ふ事ありさや軍を起し西國も亦松城と云ふは軍
 に起時はさや名をも揚たりさや時さやさやさやさや

一々後方々々推し直し狼之を咄まると見すと余は乃々山栗の者も
 何れそ人家ごとく所々推して民衆の軍をとりけりて下向は
 一頃も新田益貞又之と偲み共々馳加わりて録倉と攻
 には家運傾きたる北條處の軍は乃々長修助勝田信門一方を防ぐも
 馳勇常者なく字子引色にうらうと民衆陣にけりて卒と勵まけり
 取圍めて攻りて遂に長修と取高時も自死し録倉平均一先帝還す
 わりて海内一統の時に至りて成貞の推挙によりて卒を修らばり上出羽へ
 二郡とほらるる石とも人見下野守定澄とわたりて多々の懸懐を以て
 一環が志と感下人とほりて山栗の勅勢を密にけりて頃部下の者錦
 都が志と密にけりて新て足利にけりてとありて一環が身の果
 いはちりしやと密にけりて昼夜ねん願ふもも捜求すべし方便さ



甲と送るらんと新田足利の確執本々下下さし新田より自
 新田は属々足利を攻め東國を下す數名の強は新田に力く都
 登兵人見の才國下下る奥羽の國司北條と相議々奥羽の勢を
 上洛々足利を逐す西國は追逐々新田も其忠戦之感ん教
 かりしを定まる妻もあらずいふもそのとも娶て後嗣をとらんを
 せむらる人見の環々こととすは妻とも迎ふことあり其後
 ともく足利大軍を仰攻登其の北條は走りまよる南
 狩り及子や人見を國に呼らるる再び官軍を仰せんと欲する頃
 一族のとも國に新田門成國なる者主娘と人見に娶せんことを
 環々消息を伝ふ六多と傳れども主影着とこととて今い
 後任後嗣とのをせられ又復の罪人なりと領事たりし國に

吾目と多し婚儀と相へて、妙と水にまゝい飛浮ちり、身も一人、妙
と連り、よく也、則ち若くは固都限り、くも、い居り、人見、通、其の
身、も、其の、固都、が、籠り、其の、妻の、臺を、其の、婚君、と、い、私、請、する、也、
新婦、も、也、教、り、ま、ね、い、たり、や、や、二、間、ま、あ、入、久、く、中、や、あ、い、使、女、い
か、す、も、ま、び、溢、升、たり、た、り、と、や、と、は、あ、く、ら、ん、を、其の、固都、ま、ま、の、
く、ま、わ、り、と、使、女、も、あ、り、く、ま、さ、い、は、あ、く、ら、ん、只、婚君、の、い、ま、ま、ん、と、今、ま、ん、
の、ま、り、わ、り、あ、り、人、見、も、あ、り、ま、ん、と、い、ま、い、固都、も、あ、り、と、諸、の、あ、り、
ら、あ、り、針、糸、の、あ、り、わ、り、人、見、あ、り、と、又、見、ま、り、醫、術、と、教、つ、る、こ、と、
わ、り、い、み、溢、死、の、者、の、ま、り、と、ま、り、調、理、も、志、わ、り、と、多、の、請、ま、二、間、ま、あ、り、
ま、り、溢、す、妙、の、業、に、わ、り、一、理、も、人、見、と、い、ま、い、く、や、あ、り、は、あ、り、
か、く、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、あ、り、あ、り、あ、り、と、諸、り、と、い、ま、い、あ、り、と

卷之五

思、あ、り、見、ら、る、と、理、も、人、知、れ、は、い、い、候、あ、り、ま、い、ま、り、と、い、く、此、國、ま、い、
よ、い、ま、ま、も、候、ま、か、さ、ま、か、さ、り、い、ひ、の、名、ま、も、あ、り、ま、り、あ、り、は、い、
く、も、あ、り、と、い、ま、い、と、ま、り、の、婚君、に、あ、り、ま、い、を、の、あ、り、ま、り、い、
ま、悪、し、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、
い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、
身、身、毒、の、殺、殺、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、
く、か、つ、の、異、國、に、も、其、例、と、い、ま、い、女、の、列、女、と、い、ま、い、女、娘、の、社、
親、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、
注、是、と、移、り、い、ま、い、人、見、も、あ、り、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、
い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、い、ま、い、と、

夫の女を人見取とて岡部の息女に嫁せしむる事諸條に
まかりたる數あり其妻を嫌むる事多かりしを因りて
恩と謝て之を離れ隨てはるる者として二女あり新人と送る
婚儀と執りて入る事あり嫉妬する事あり環をの婢を若とて
御遊する事あり其功ありて其賢操と賞べして其も輕慢
を人見とてかき親しむ事あり南朝といふを辱めし後其
足利家より移り損益をせむるは乃領恙なく安堵
して先づ其事入る事あり

繪本忠孝

鑑日奇觀卷之五終

卷之五

〇十七

繪本忠孝二見浦金十冊

弘化新板

福田先生著

獨おほえ
下んし本

算法子傳

懐中本

弘化五戊申正月

河内屋政七

大阪心齋橋通り

河内屋新助

南海堂藏版目錄

梅花柳水

梅若九更讀采

全五冊

烏石天馬賦

石霜

全一冊

額題粉花集

全五冊

豫州好人錄

忠孝勸善

全五冊

小倉書人首考鑑

全二冊

詳蕉門句撰

全三冊

當目奇觀

奇談讀說

全五冊

稽古御和讚

平假名付

全二冊

八日菴叢句集

全三冊

女非伶孔錦

函入讀本

全五冊

萬寶商賣往來

同

全一冊

狂哥榮花之夢

全二冊

福德啣狗

桂文治落時

全五冊

御家流諸職往來

同

全二冊

狂歌藻塩艸

全三冊

聖意養要論

長命養全

全三冊

實語教童子教

同

全一冊

狂歌初學抄

全一冊

諸宗法話

全一冊

商賣往來

堀流水筆

全一冊

新撰碁經大全

全三冊

大阪天神橋南詰少之南江入

碁立秘傳其石經妙手

全三冊

製本所

南海屋孫兵衛板